

臨床研修修了にあたって

臨床研修を修了して

研修医 岡田 萌



新潟大学での研修は毎日
が新しいことばかりで、歯
科医師としてこれからの研
修に期待をもって臨むぞ！
という明るいものだけでは
なく、それはもう学生の時
とは立場が違うのだという

何とも独特なずっしりとした暗い不安な気持ちで
始まりました。

外部からやってきた私は新しい大学の中で、ま
ず仲間と出会いました。学生生活で一定の環境と
人たちの中で六年間過ごしてきて、久しぶりに味
わう感覚です。「あれ？ 友人と親しくするにはど
んなふうに接していくのだっけ？」といった調子
で人と関わることを一からまた勉強することと
なっていました。そして先生方、患者様と、次々
と人との出会いがあり、そこから学ぶことは沢山
ありました。そのような中、診療にも徐々に携わ
るようになり一口腔を守るのにこんなに考えるこ
とがあって一人一人こんなにも異なるものなの
か、と実感させられました。また先生方から学べ
ることはすべてで、それは診療内容だけでなく気
持ちの上での姿勢や、話し方、いざとなる時のとっ
さの対応など、先生の横で、自分で感じ取って学
んでいく以外にないということもあることを知り
ました。歯科医というのは患者様の口腔内を任せ
られる職業で何かあれば全身にも容易に影響が及
びます。食べること＝生きることで、本当に責任
がある仕事であるといえます。そうとはいえ、実
際の診療では自分の考えの及ばなさに嫌になっ
たりすることがしばしばです。私にとってこの一年
間の研修でのテーマは「とにかくやってみること、
前に進むこと」でした。この一年は紛れもなく私

という歯科医の始まりでそこに飛び込むことは、す
ごく怖いことでした。しかしやってみなくてはわか
らない、とにかく失敗してもまず経験。という気持
ちで自分なりに励ましてきました。私はまだまだ青
く診療にも時間がかかってしまうこともあります
が、春よりは前に進んでこられたのではないかな
と思います。こうして少しずつでも学んだことを
積み重ねて毎日がつながって一人前になっていく
ものなら前向きに今の自分にできることを日々の
診療に生かしていきたいです。指導医の先生方
には数多い研修医の診療を抱える中、時に温かく時
に厳しく的確な指導をしていただきました。治療
にあたる上で方法の選択は多様であるためどの方
法を選択するかとても頭を悩ませますが、患者様
の背景など考え合わせたくてベストな選択をし
なくてはなりません。そのようなときにも先生方
からは幾度となく私の固い考え方からこんな方法
もあるのだということを示していただきました。

そんな先生方は、歯科医としての師であり、心
の師であり私の目標です。

春が過ぎ、夏が過ぎ、秋、冬と流れるように時間
は過ぎて行きましたが私はこの一年間、今までの人
生の中で一番大きく成長したのものになったと思
います。まだまだ困難にぶつかって辛い日々が続くこ
ともありますが、それでも今笑顔で楽しく過ごせて
いる私があります。私がこうして歯科医として順調
に歩みだせたのはいろいろな人たちの支えがあっ
たからだということ強く感じるようになりました。
指導医の先生をはじめ医員、レジデントの先生
方、技工士の先生方、私と二人三脚で診療をしてき
てくれたペアの小出先生、周りの研修医の先生、摂
食嚥下リハビリテーション室、顎関節治療部、口腔
外科の先生方、長引く診療でも笑顔で応えてくだ
さった患者様、私をどんな時も応援してくれた家
族、友人、すべての人たちに感謝を伝えたいです。

本当にありがとうございました。(これからもよ
ろしくお願いします！)

臨床研修を終えて

小児歯科学分野歯科研修医 作 間 健 彦



昨年度国家試験を無事通過し、晴れて歯科医師となることができました。僕は新潟大学歯科医師臨床研修プログラムBコース採用となり、前半半年は東京の永山センター歯科、後半は

小児歯科で臨床研修を行いました。

東京の永山センター歯科はドクター数が11人でインプラント、自費診療などにも力を入れている大規模な歯科医院であり、自分が半年耐えられるのか不安でした。初めのうちは院長のアシストにつき少しずつ診療を割り当ていただきました。院長は患者数も多くついて行くだけで精一杯でした。慣れない環境に一人ということもあり特に初期の頃は大変でした。そんな中新しいドクターが2人勤務することになりました。その先生方とは境遇が同じなためすぐに打ち解け、よく飲みや麻雀に連れて行ってもらいました。初期は大変でしたが慣れるにつれてとても楽しく研修を行うことができました。

永山センター歯科に半年勤務して自分のなかで開業医に対するイメージは大きく変わりました。まず、そこにいた先生方は皆とても勉強熱心でした。常に最新の知識を取り入れようと努力しており、自分の知識など足元にも及んでいないと感じました。また、忙しくとも診療や治療の説明などには手を抜くことはありませんでした。周囲のドクターの影響で歯科の勉強に対するモチベーショ

ンが上がっていくのを感じました。

後半は小児歯科で松山先生による指導の下で研修を行いました。後半の研修では鎮静法を用いねばならない症例や咬合誘導を行う症例が多く、大学にいなければ勉強できない症例を多く見ることができました。臨床実習では小児を担当することがなかったため、小児への対応の難しさを痛感しました。診療中子供が泣いてしまうとなかなか上手に対応することができず、今後自分が歯科医療に携わる中でどのように小児に対応していくべきか考えさせられました。

小児歯科では医局旅行、忘年会、学ゼミの追いコンなどの行事に参加させていただきました。どれもいい思い出なのですが、特に医局旅行ではもう一人の研修医の又吉さん、社会人大学院生の村山さん達と新人芸を行ったのが自分の中で印象に残りました。村山さんが指揮をとってくださり結果も3人とも満足のいくものだったと思います。

小児歯科では勉強・行事共にとても恵まれた環境の中研修させていただいたと思っています。特に指導医の松山先生には大変お世話になりました。自分の至らない部分を優しく諭して下さったり、疑問に対して丁寧に答えて下さったり、パンを下さったりと、何度もお世話になりました。松山先生本当にありがとうございました。

この一年の研修は自分が将来歯科医師としてどう生きていくかをよく考えるための期間であったと思います。今後も歯科医師としての能力を向上させるために努力していくつもりです。最後となりますが、半年ずつお世話になった永山センター歯科、小児歯科の先生方にはとても感謝しています。ありがとうございました。